

進路ニュース

みらい

49号

広島市立広島特別支援学校 進路指導部 広報係

高等部第1学年～自分を知る～

1月23日～27日の5日間、「かきのから通し」「しいたけの菌打ち」「食品サービス」「縫製」「清掃」の5つのグループに分かれて校内実習を行いました。普段の学校生活とは違うメンバーで、生活リズムで緊張感をもちながら「仕事」に挑む5日間でした。同じ作業を5日間続けることで「自分から貝殻に手を伸ばして、針金に通せるようになった」「時間いっぱい仕事を続けることができた」「大きな声で報告ができるようになった」などの成果を感じられた生徒もいました。また、仲間とともに仕事をする喜びを味わったり、作った製品を買ってもらったり、使ってもらったりする充実感を感じることができたようです。この5日間の実習で得た成果を大きな自信にし、これからの学校生活に生かしてほしいと思います。

2月27日には「高3先輩から学ぶ」「余暇活動」の学習を行いました。「高3先輩から学ぶ」では2人の先輩から1年生の頃の話から進路選択への取組、実習についてなどの話を聞き、その話を聞くことで自分のことやこれからの学校生活で取り組むことなどを考える機会となりました。「余暇活動」では文化的行事の体験ということで広島市中心身障害者福祉センターに行き、手品の鑑賞・体験をしました。施設の利用と楽しい余暇活動の体験で卒業後の豊かな生活のイメージづくりとなったのではないかと思います。

3月中旬には1年間のまとめの学習を計画しています。1年間の学習を振り返り、2年生へとつなげていきたいと思います。

高等部第2学年～職場見学～

進路学習の一環として1月末に職場見学を実施しました。デイサービスや作業所・施設・企業など複数のグループに分かれて、施設内の見学や作業体験などを行いました。

実際に職場で働いたり、活動したりしている人たちの様子を間近で見学することで、「働く」という雰囲気を感じ取ったり、学校とは違う社会生活の場に関心を示したりする生徒もいました。また、作業体験では緊張しながら真剣に取り組む姿も見られました。

帰校後、グループごとで事後学習を行い、見学・体験したことを振り返りながら、自分にとって作業内容や職場の雰囲気はどうだったかなどを考えることで、自分の進路について考える機会となりました。今後、生徒たちが進路を考えていく際、今回の学習を生かしていきたいと思いません。

高等部第3学年

高等部最終学年である3年生は、一人一人の生徒が、地域の中で生きがいをもって豊かに生活することを目指し、希望する進路（生き方）の実現に向けて、指導や支援を行ってきました。3年生になる前から個別懇談を行い、修学旅行までには実習先を決定しておくという流れを目標に取り組みましたが、74名の進路を考えるには選択肢が少なく、見通しがもちにくいスタートでした。

進路希望をもって実習を行っても体制が整わない、利用者人数が達しているという理由で利用の可能性が限りなく低い場合には進路変更が必要となりました。変更先での実習を行おうとすると、数か月後になり取組がしばらく止まってしまうケースもありました。

複数箇所、実習を行ってから適したところを希望したいという思いをお持ちの場合には、最終的に希望先の決定時期が遅れる間に、利用予定者が出てくることで希望が叶いにくくなるというケースもありました。

今年度は、児童デイサービスの利用年齢の拡大が行われたために、申請した施設を待機することになっても、在宅生活の充実として利用できることで、卒業後の生活に見通しがもてました。

就職希望の生徒の場合には、近年の傾向として何度も実習を行う傾向があります。企業側からの申し入れによって採用になるまで2週間～4週間の実習を実施することで仕事を覚えたり、適正を見極めたりすることが求められています。進路決定のための実習は、次第に早い時期からのスタートが必要となってきているようです。

保護者の皆様には、4月に進路説明会、進路に関する調査、職業相談の実施。6月には、高等部全体での進路ガイダンス説明会。11月には、自立支援給付に関わっての研修を行いました。個別に進路相談を実施したり関係機関との話し合いを行ったりして綿密に取り組んで参りました。

卒業後、生徒には今までとは違う全く新しい環境の中で、これまでに付けてきた力を信じ、一杯生きて行ってほしいと思います。学校から社会へ、子どもから大人へ、よりスムーズに安心して移行できるよう、できるだけ関係機関との連携をとり、見守っていききたいと思います。

3年間、御協力ありがとうございました。

進路コーディネーター ～第2回高等部生徒就職支援連携会議を終えて～

2月16日(木)に、ハローワークをはじめ、就労に関わる様々な支援をいただいた関係機関の方々に参加していただき、第2回高等部生徒就職支援連携会議を開催しました。今年度の就労への取組の報告をするとともに、来年度に向けての支援や連携に関する情報交換などを主に行いました。今年度の取組から明らかになった課題を踏まえ、「取組を開始する時期の見直し」、「家庭による本人サポートの重要性」「定着指導に向けた関係機関との連携の強化」などが今後の検討課題として明らかにされました。移転・開校という節目の年にもなる来年度は、出された課題を十分に検証するとともに、より充実した取組が展開されるような体制づくりをしっかりとしていきたいと考えています。

1年間を振り返って

ひと雨ごとに春の暖かさを感じるようになりました。今年も新しい社会へと送り出す季節になりました。

今年度の進路指導の最大の課題は今までで最も人数の多い高等部第3学年74名の進路決定でした。一人一人の生徒の卒業後の生活をイメージしながら、進路先を当たり、保護者の方との話し合いを重ね、実習をしていきました。ダイサービスや施設・作業所の厳しい充足状況、広がりつつある通勤(通所)範囲、福祉サービスを併用しながらの利用など進路担当中心に情報を収集し、全ての生徒のケースに合わせて検討してまいりました。また、本校の進路指導を支援してくださる地域生活・就労支援ネットワーク委員の皆様にもアドバイスをいただくこともありました。その結果、現在30か所余の施設作業所、10か所余の事業所への進路が決定しつつあります。卒業を間近に控え、学校での取組や支援が引き継がれるよう、担任が進路先を訪問して引継ぎ会を行っています。本校を巣立っていく生徒の卒業後の就労や生活がスムーズに移行され、豊かに毎日を過ごされることを心から願っております。

高等部第2学年は卒業後の進路を具体的に話し合う個別懇談会を前に、高等部第1学年は校内実習の評価を踏まえ来年度に生かせるように、個別の移行支援計画の評価を行っています。中学部では、小学部から中学部、そして高等部への系統性を考慮した進路学習と保護者研修会を実施してきました。

今年度も本校の進路指導について御協力と御理解をいただきありがとうございました。末筆ながら、お礼申し上げます。学校より保護者の皆様に発信しつつ、保護者の皆様からの御協力や御助言等もしっかりと受け止め、連携を取りながら今後とも進めていきたいと思っております。来年度もどうぞよろしく願いいたします。

《進路指導部長》

情報コーナー

「広報ひろしま市民と市政」より

